瀬戸内国際芸術祭2025[秋会期]

「高見島アートトレイル」

◯参加作家：淺井裕介、泉桐子、橋本雅也、谷本真理、保良雄、
中谷ミチコ+大室佑介、BankART1929+PHスタジオ

◯会期：2025年10月3日[金]～ 11月9日(日)(秋会期)

休島日10月23日・30日(ともに木曜日) 作品鑑賞可能時間：10:10～16:30

◯会場：高見島(香川県多度津町)

◯鑑賞料：芸術祭シーズンパスポート

一般	ユース[16～18歳]	15歳以下
4,500円	2,500円	無料

高見島共通チケット 2,000円、高校生以下無料
(高見島アートトレイル作品＋高見島に展示されている作品)
※高見島には高見島アートトレイル作品以外に7作家の作品があります

パスポートについて詳しくはこちら
https://setouchi-artfest.jp/buy/passport/
パスポートについて

会期中の航路(西のエリア)
https://setouchi-artfest.jp/pdf/route_during_event_west_area.pdf
会期中の航路

◯お問い合わせ：瀬戸内国際芸術祭総合案内所
TEL：087-813-2244　https://setouchi-artfest.jp/

高見島について注意事項
急な坂道や階段が多いので、歩きやすい靴や服装でお越しください。
島では芸術祭期間中限定の飲食店が開かれますが、それ以外には、食料品店や自動販売機などはありません。飲料水などは事前にご用意されることをお勧めします。またゴミはお持ち帰りをお願いします。
注意事項については芸術祭公式サイトのこちらのページもご参照ください。

◯アクセス｜高見島へは、主に三つの航路があります。

㋐多度津港から直行便で高見島へ
㋑丸亀港から本島を経由して高見島へ
㋒須田港から粟島を経由して高見島へ
㊐本島、粟島と周遊

㋐ 多度津港から直行便で高見島

■多度津港まで

◎電車の場合
・東京、関西、中国、九州方面から新幹線でJR岡山駅下車→ JR岡山駅ーJR多度津駅(快速で約70分)
・高松方面から→ JR高松駅ーJR多度津駅(快速で約30分)※飛行機の場合、高松空港からJR高松駅まではリムジンバスで約45分
・JR多度津駅から多度津港まで(徒歩約20分)
会期中無料シャトルバスが朝8時からフェリー最終便の到着まで約30分間隔で運行します。会期中JR多度津駅と多度津港を結ぶ無料シャトルバスが、8時からフェリー最終便の到着まで約30分間隔で運行します。

◎車の場合(多度津港まで)
善通寺IC→一般道(約20分)、坂出IC→一般道(約20分)
多度津港が臨時駐車場に車を停めてお越しください
駐車場情報
https://setouchi-artfest.jp/access/useful/#parking

■多度津港↔高見島

所要時間＝約25分

多度津発	高見島着	区分
6:55	7:20	フ
9:05	9:30	フ
11:00	11:25	フ
14:00	14:25	フ
16:20	16:45	フ

高見島発	多度津着	区分
8:30	8:55	フ
10:25	10:50	フ
11:35	12:00	フ
15:50	16:15	フ
17:35	18:00	フ

料金＝大人500円／小人250円
定員＝平日95人、土日祝150人
電話＝たどつ汽船 0877-32-2528
※岡山県(真鍋島)から佐柳島を経由して高見島に入る航路もある(毎土、1日1便)
※チケットは現金のみでの支払いになります

㋑ 丸亀港から本島経由で高見島(丸亀駅から丸亀港まで徒歩7分)

■丸亀港↔本島 所要時間＝フェリー約35分、高速船約20分(本島からは㊐参照)

丸亀発	牛島発	本島着	区分
*6:10	→	6:45	フ
7:40	→	8:15	フ
9:00	→	9:35	フ
10:40	→	11:15	フ
12:10	12:25	12:30	高
13:20	→	13:55	フ
**13:40	→	14:15	フ
15:30	→	16:05	フ
16:30	→	16:50	高
	16:58	17:03	高
18:15	→	18:35	高
20:00	→	20:20	高

本島着	牛島発	丸亀着	区分
6:50	→	7:20	フ
8:20	→	8:50	フ
8:30	8:36	8:50	フ
*9:40	→	10:10	フ
12:35	→	13:05	高
14:15	14:21	14:35	フ
**14:50	→	15:20	フ
14:50	→	15:20	フ
16:52	16:58		高
17:10	→	17:40	高
17:50	→	18:10	高
19:30	→	19:50	高

料金　丸亀↔本島＝大人560円／小人280円
定員＝フェリー240人、旅客船80人　電話＝本島汽船 0877-22-2782
*毎月第2・第4木曜日は危険物優先便。危険物優先便は乗客25人までは乗船可 **水曜日のダイヤ

㋒ 須田港から粟島を経由して高見島へ(JR詫間駅から須田港まで 車で約10分)

■須田港↔粟島 所要時間＝高速船で 約15分(粟島からは㊐参照)

須田発	粟島着	区分
6:20	6:55	高
7:25	7:40	高
9:10	9:25	高
10:50	11:05	高
12:40	12:55	高
15:10	15:25	高
18:00	18:15	高
18:05	19:20	高

粟島発	須田着	区分
6:45	7:00	高
7:50	8:05	高
9:35	9:50	高
11:15	11:30	高
14:30	14:45	高
17:15	17:30	高
18:25	18:40	高
19:30	19:45	高

料金
須田↔粟島＝
大人330円／
小人170円
定員＝70人
電話＝粟島汽船
0877-24-6300

㊐ 本島、粟島と周遊

■本島↔高見島↔粟島 所要時間＝本島から約30分、粟島から約25分

本島発	高見島発	粟島着	区分
10:05	10:35	10:55	高
11:15	11:50	12:10	高
12:25	13:00	13:20	高
13:30	14:05	14:25	高
14:35	15:10	15:30	高
15:40	16:15	16:35	高

粟島発	高見島発	本島着	区分
10:00	10:25	10:55	高
11:15	11:40	12:10	高
12:25	12:50	13:20	高
13:30	13:55	14:25	高
14:35	15:00	15:30	高
15:40	16:05	16:35	高

料金　本島↔高見島＝大人1300円／小人650円　高見島↔粟島＝大人1100円／小人550円
定員＝70人又は78人(使用船によって異なる)　電話＝にじ汽船 0877-24-6300

フェリー時刻表　各エリアの駐車場　交通情報は芸術祭公式サイトでもご確認いただけます

SETOUCHI TRIENNALE 2025

瀬戸内国際芸術祭2025 秋会期

高見島アートトレイル
TAKAMISHIMA ART TRAIL

2025年10月3日[金]～11月9日[日]
10:10～16:30 休島日：10/23[木]、10/30[木]

主催：瀬戸内国際芸術祭実行委員会
ディレクション：BankART1929

高見島の浦集落は、急な坂道をのぼった先にある。序盤に心臓破りの坂があり、荒い息を整えながら道幅1メートルにも満たない細い道や階段を踏み外さないよう注意深く歩いていく。山側には手積みの石垣、海側は家々の屋根や生い茂った木々、あるいは断崖絶壁。その向こうに時折青い海がキラキラと光ってみえる。耳には自らの呼吸と風に揺れる木々の音。時折虫の羽音と遠くかすかに船のエンジン音が入り交じる。身体的な感覚を総動員して、都会では邪魔にさえなるやもしれぬ「野生」の感覚が、ここにあっては必要だ。同時に、この急峻な地に豊かな棲家を築いたかつての人々の業と意思と知恵、相互扶助の営みにも行き当たる。そうした記憶を呼び覚ますように、作品たちは土地と響き合い、島と集落の深部へと静かに誘っていく。

TAKAMISHIMA ART TRAIL

瀬戸内国際芸術祭2025 秋会期

高見島アートトレイル

作品鑑賞可能時間 10:10〜16:30

※ 屋外作品は上記以外の時間でも観覧可能

◎ 多度津港行き最終船 17:35発

A｜淺井裕介

《星屑の子どもたち》

屋外作品

屋根瓦の隅、木の枝の付け根、民家の門など島の様々な場所にひっそりと佇む小さな陶芸作品たち。タイトルとなる「星屑のこども」は淺井が2019年より続けている手のひらサイズの小さな陶芸作品群であり、様々な土地を巡り土を使ってきた作家の「生まれては消えていく生命への眼差し」「人間と自然の異なる時間の尺度」などの思いが込められている。

B｜谷本真理

《Stepping stones of memory》

陶器に描かれているのは、さまざまなモチーフや風景である。いずれも島や中塚邸にあったものから着想を得ているが、一見すると無関係に思えるものも多い。谷本は、「思い起こされることの連鎖」を描き留めている。何かを感じたとき、別の何かが思い起こされる。まるで飛び石を跳ぶように、ひとつのきっかけから個人的で脈絡のない記憶やイメージが次々に浮かんでは離れ、やがてまた別のものと結びついていく。

C｜泉 桐子

《The days when you said you were okay and the scene about the boat》

泉は和紙に墨と顔料、一種類の面相筆を使って絵画を制作する。今回は島の港で見た「サンパン舟」が出航する瞬間の写真と、リサーチ時に案内人が呟いた「サンパンは雨の日も嵐の日も、どんな時でも海に出た。」という言葉から、かつては幾重にも繰り返されたであろう、小舟とそれを見送った・見送られた人々の光景と感情をイメージし、大きな画面に描きだす。

D｜橋本雅也

《子音と海》

橋本は中塚邸の屋根裏の暗がりに、木と土からなる作品群を展示する。高見島には「両墓制」の墓地があり、肉体を埋葬する墓と、人々が詣るための墓とが分かれている。かつて、その墓地のすぐ脇に産屋があったと聞いた橋本は、「死者」と「赤ちゃん」という両極が隣接していたことに、形を持つ以前の存在が深く海の底でつながっているようなイメージを持ったという。「死/生」や「天/地」を二分する境界がなく、名付けられる以前の存在が、明滅をくりかえし生成する「場」を想像し、形にする事を試みたのが今回の作品である。窓から差し込む光と与えられた影が、「かたち」を浮かび上がらせていく。

E｜保良 雄

《おりおりる》

高見島でかつて行われていた「なもで踊り神下ろし式」は、12人の踊り手が円をなして舞い、中央の木に神を迎える儀礼だった。山頂には龍神が祀られ、点在する井戸からは水への祈りと生活の記憶が汲み取れる。保良の作品は、こうした構造をもとに組み立てられている。12の電球が円を描いて明滅し、太鼓の律動が空間に反響する。中央には神の依代とされていたせんだんの木が、AIとの共作によりガラスで再構成され、その上方からは、井戸の水が静かに落ち続ける。すべての動きは機械により制御され、かつてこの場所で交わされていた出来事と、いまここに差し込む静けさとをゆるやかに重ねながら、機械のなかに宿された律動として響き続ける。

《種蒔く人》百年後芸術祭　2024
photo:Akihiro Itagaki(Nacasa & Partners)

F｜淺井裕介

《土ヲ喰ム》

突如廃屋に現れる土色の獣、みる角度によって見え方の異なる立体作品の性質を活かして微笑んでいるようにも怒っているようにも見える。これまで土地の土を使い壁画などの滞在制作を数多く行ってきた淺井が島の土を使いつつ巨大な立体作品に挑んでいる。

G｜谷本真理

《Left things,letters》

屋外作品

<石垣作品>石垣の隙間に、小さな陶器がそっと置かれている。もともとあった植物や、島の人々が置いたのであろう石やゴミに紛れて、静かに佇む。その陶器たちは、さまざまな形をしている。くしゃくしゃになったハンカチのようだったり、砂浜で拾った貝殻のようだったり。あるいは、ポケットの奥で忘れられていたメモのようにも見える。それらはまるで、「忘れられた置き手紙」のように、そっとそこに存在している。

H｜BankART1929＋PH STUDIO

《われらをめぐる海》

高見島の浦集落は、港から急な坂を登った先に位置し、往来には大きな労力が伴う。この地での暮らしには、傾斜のある地形や水の少ない地勢と向き合う知恵と力が必要であり、その困難さゆえ、今ではこの地での暮らしを手放す人も多くなった。しかし、どの家にも大小様々に存在する「海の見える窓」に、この地での生活の魅力を見出したことから作品を展開する。まず、各家の窓から見える海の写真を撮影してまわり、ポストカードを作成。来場者は気に入ったものを選んで持ち帰ることができる。さらに、この海の光をカメラ・オブスキュラの原理で暗い家のなかに招き入れた空間を創出させる。

I｜BankART1929 + PH STUDIO

《家具φ in 高見島》

屋外作品

今回は「PHスタジオ」が1984年より継続して制作し、BankARTでも椅子プロジェクトとして展開されてきた《家具φ》シリーズを高見島で展開。使われた家具はすべてがオリジナルであるという考えに基づき、その使われ方や壊れ方をも活かして、高見島や多度津で集めた不要な椅子を用いたベンチ型の作品として展開。坂の多い高見島で、作品鑑賞の合間にひと息つき、風景を楽しむ場を提供する。制作にはPHスタジオに加え、多度津高校建築学科の生徒も特別参加。

J｜中谷ミチコ + 大室佑介

《鳥のための塔》

屋外作品

大室佑介設計。内部には中谷ミチコが制作した羽ばたく2羽の青い鳥が漆喰の壁に埋め込まれている。粘土で造形をした原型を石膏で型取りし、雌型に樹脂を流し込まれている。その像は空洞であると同時に「気配」に肉体を与え、実在と不在を同時に表す。青い鳥の存在を閉じ込めると同時に永遠に広がる世界を内包し、見る人をひとりぼっちにする八角形の海辺の塔。

K｜BankART1929 + PH STUDIO

《「高見島アートトレイル」をトレイルする》

急峻な地形ゆえ作品まで辿り着けなかった人々に向けて各作品をレポートする映像を公開。さらに会期中に行われるパフォーマンスイベントの様子も映像で紹介する。

高見島アートトレイル

オープニングパフォーマンス

『あめつちうみ』

坪内一家 × ハブファミリー

日時：2025年10月4日［土］

14:25 高見島船着場集合

（14:00多度津港発の船到着にあわせて開始）

音楽×ダンス×美術によるライブパフォーマンス。アフリカの太鼓や民族楽器、創作の太鼓舞踊、コンテンポラリーダンス、仮面や創作獅子舞とオリジナルの歌を軸に、高見島に眠っていた物や、現在途絶えている芸能「なもで踊り」などにインスパイアされて創作。高見島の自然や歴史と融合し、秋会期のオープニングを祝うパフォーマンスを上演する。

坪内一家×ハブファミリー：坪内あつし（音楽家）、菜央（ダンサー）、ハブヒロシ（遊鼓奏者）、井坂奈津子（美術家）と、その子供たちによる芸能集団。